

市民・団体 インタビュー

鶴ヶ島市赤十字
奉仕団

×

市議会

チャレンジする人を応援する鶴ヶ島に

「赤十字のボランティア活動を通じて地域社会に貢献したい」という思いを持った方々によって結成された鶴ヶ島市赤十字奉仕団。

令和4年8月23日(火)に鶴ヶ島市赤十字奉仕団の皆様インタビューをしました。



応急手当講座の様子

今回取材した鶴ヶ島市赤十字奉仕団のメンバー

委員長 広瀬 桂子
副委員長 中村 伸子
副委員長 嶋田 光代
落越 道子
五傳木博美
岩瀬 園枝
木幡 艶子

●日頃の活動で思うこと

団員も高齢化してきたので、「できる人ができることを」をモットーに無理なく活動していたらと思っています。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、お祭りなどでの手作り品の販売などの活動が中止となりましたが、自主縫製は続けています。手作り雑巾や足置き台を高齢者・障がい者施設に寄贈しており、今年は幼稚園にも寄贈しました。

毎月、庁舎ロビーで手作り品を販売しています。手作り品の売上げは国内外の災害義援金としていきます。庁舎ロビーでの販売は、天候に左右されず活動できるので助かっています。

●次世代に赤十字の精神を継承
今回取材した、日本赤十字社埼玉県支部による救急法短期講習会では、中学生6人が受講しました。

「怪我をした人に遭遇したときには、必ず誰かと協力する」という極意から、「飛んでくる蚊をパチッと手でたたいてはダメ」まで、知っていれば自分を守ることもなる軽快な講義と救急法体験は、次世代につながる企画となりました。

最近入団された方は、仕事の合間の時間にボランティア活動をしたいという思いから、自ら進んで社会福祉協議会を訪ねたそうです。

●まちが元気になるために

通学路で擦れ違った児童が、「こんにちは」と挨拶をしてくれたとき。横断歩道の歩行者に気づき車を止めたら、渡り終わったあと、振り返って会釈をしてくれたとき。とても嬉しい気持ちになりました。

挨拶ができるまちは、住みよいまちになるし、自然にコミュニケーションがとれます。

●議員に一言

地域の活動にもっと参加して、見に来てほしいです。顔を合わせれば、話してみようかなとなります。

市民は生活の中で議員が見えています。直接議員が足を運び、声をかけて地域に入っただけだったら市政とのパイプになると思います。

市議会は市民の声を直接聞きに出かけます！

編集 後記

今号の記事は、いかがだったでしょうか。各議員による決算の評価や議会報告会2022など、多くの記事を掲載しました。

今回の議会報告会では、本会場（議場）と三つの市民センターの各会場とをつないだ、対面とオンラインのハイブリッド開催に挑戦しました。不慣れな点も多く、参加者の皆様には、ご迷惑をお掛け致しましたが、沢山のご意見をいただくことができました。

今回の反省点を踏まえ、次に生かしていくと共に、より多くの方からのご意見をいただけるよう、今後の活動にっなげていきたいと思っています。

(広報広聴委員)

委員長 大野 洋子
副委員長 内野 嘉広
委員 松尾 孝彦
委員 小林 ひとみ
委員 太田 忠芳
委員 石塚 節子
委員 持田 靖明
委員 杉田 恭之

(持)